

## 金融危機と融資枠

### -コミットメントライン、当座貸越がもたらした効果の検証-

一橋大学大学院生 本田朋史

本稿は、融資枠(コミットメントライン、当座貸越)が流動性ショックの対策としてどのような効果をもたらしたのか、リーマンショック前に上場していた企業を対象としてDifference-in-Differences(DID)分析方法を用いて検証した。

本稿は、第1に融資枠を契約していない企業と比較することで、融資枠がもたらす効果を検証している。第2に、コミットメントラインと当座貸越が代替的であるかどうかを検証するため、それぞれの融資枠契約をしている企業間において比較をしている。

本稿が得た結果は次の通りである。第1に、融資枠を契約していない企業と比較して、コミットメントラインを契約している企業は金融危機以降、現金保有を厚くしていることが観察された。第2に、コミットメントラインを契約している企業でも、金融危機以降、融資枠を契約していない企業と同程度に設備投資の減少が観察された。第3に、当座貸越を契約している企業は、金融危機以降、融資枠を契約していない企業やコミットメントラインを契約している企業と比較した場合、現金保有が少なくなっていることが観察された。本稿の結果により、コミットメントラインは、金融危機以降、現金保有を厚くするために利用されており、機動的に流動性ショックに対応することができることを示唆している。しかし、当座貸越については、コミットメントラインと同様の効果は観察されず、流動性ショック対策としてコミットメントラインと当座貸越は代替的ではないことが示唆される。